

現状と課題

平成2年から15年間の本市の就業者動向を見ると、市内に住んで市内で就業している数は10,413人増加し、市外からの流入就業者を加えた市内就業者数は133,287人から145,646人と12,359人(9%増)の増となっています。このように、本市は大阪・神戸のベッドタウンから市内に職場がある職住近接スタイルの都市へと変化しつつあることから、さらに市内での起業、雇用を促す取り組みが求められています。

○本市の商業は、商業施設の集積の状況としては、おおむね主要駅周辺を中心に立地しており、特に、阪急西宮北口駅周辺、阪神西宮駅周辺、JR西宮駅周辺、JR甲子園口駅周辺、阪急夙川駅周辺や阪神・阪急今津駅周辺などにまとまっています。JR西宮駅南には老朽化した卸売市場が立地していますが、まちづくりの面からも再整備が課題となっています。

急激な大型小売店の増加に対応するため「良好なまちづくりのための商業環境形成指導要綱」を定め、大型小売店の設置者にまちづくりの観点から協力を求めています。

市民の消費志向は大型小売店へと移り、さらに商店主の高齢化や空き店舗の増加などにより、小規模な小売商業は、厳しい経営状況に置かれていますが、販売方法や商品の工夫によって消費者の注目を集めている店舗もあります。

本市の工業は、臨海部から内陸部にかけて伝統的な地場産業である酒造業を中心とした食品関連工業が主軸となって立地しています。鳴尾・西宮地区の埋立地では中小企業を中心とした多くの事業所が操業しており、北部地域では、流通業務を主体とした企業が立地しています。

市内の製造品出荷額は長期減少傾向にあります。特に事業所数の減少割合が大きく、これに伴い従業者数も減少しています。

準工業地域でのマンションや商業施設の建設が増加するなど、用地取得の困難性などにより、新たな大規模工場等の立地は難しい状況にあります。

西宮市の経済規模

	西宮市	県内シェア (%)	県内44市町中順位	尼崎市	県内シェア (%)	姫路市	県内シェア (%)	兵庫県	時期
面積 (km ²)	100.18	1.19	27位	49.77	0.59	276.00	3.29	8,394.68	2005年
常住人口 (人)	465,338	8.32	3位	462,484	8.27	482,307	8.63	5,590,381	2005年10月1日
昼間人口 (人)	383,628	7.27	4位	447,374	8.48	503,931	9.55	5,276,185	2000年10月1日
世帯数 (世帯)	192,441	8.97	4位	198,507	9.25	178,947	8.34	2,145,760	2005年10月1日
市内総生産 (百万円)	968,333	5.33	4位	1,384,609	7.62	1,833,523	10.09	18,164,409	2003年度
事業所数 (民営・力所)	13,055	5.65	4位	18,779	8.12	24,038	10.40	231,174	2004年6月1日
従業者数 (民営・人)	121,233	6.06	4位	169,134	8.45	218,301	10.90	2,001,934	2004年6月1日
製造品出荷額等 (百万円)	454,961	3.51	8位	1,247,135	9.63	1,854,052	14.32	12,945,203	2004年
小売業販売額 (百万円)	360,778	6.76	3位	360,269	6.75	561,693	10.53	5,333,625	2004年

注：県内順位については2006年3月末時点の41市町を基準としている

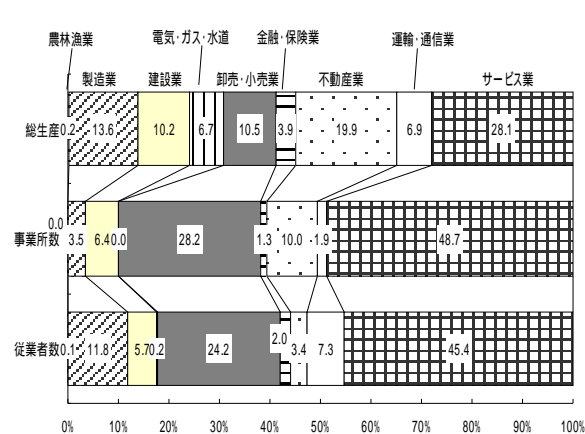
資料：総務省「国勢調査」、「事業所・企業統計」、内閣府「県民経済計算年報」、兵庫県「市区町別主要統計指標」

西宮市「工業統計」、経済産業省「工業統計」、「商業統計」、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調 (H17.4.1速報)」

基本方針

特色ある商業、サービス業を目指し、新たな活力創出と再生に向けた取り組みを支援するとともに、ものづくり分野での高付加価値化に向けた取り組みを支援します。

西宮市の産業構造



注：総生産は2003年度、事業所・従業者数は2004年の数値
事業所・企業統計では2004年から産業分類が変更になったため、便宜上、事業所数・従業者数において、飲食店・宿泊業、情報通信業、医療・福祉業、教育・学習支援業、複合サービス業はサービス業へ含めた
資料：兵庫県「市町民経済計算」、総務省「事業所・企業統計」

主要な施策展開

(1) 大型小売店と既存商業との共生

大型小売店と既存商業との共生を図るため、大型小売店設置者の協力も得ながら、地域の一体的な発展を図ります。また、意欲ある商店街や個店について、ITなどを活用した有効なPRの実施や市内大学と連携した総合的な活性化策の企画・運営などを行うとともに、市内外の意欲ある人々による空き店舗での開業支援などを行います。

さらに、県及び商工会議所との連携により経営改善に向けた取り組みを支援します。卸売市場については、流通構造の変化に対応可能な施設として、また市民に開かれた施設としての再整備を目指します。

(2) サービス業の振興

市民生活を支える健康、福祉、教育・文化、レクリエーションなど、文教住宅都市としての特性にふさわしい新たな生活関連サービスの創出と振興を図ります。また、研究開発、IT関連など企業活動を支援するサービス業の振興に努めます。

(3) 工業立地・操業環境の整備

企業移転後の跡地を引き続き産業活動に活用できるような仕組みづくりを検討するとともに、酒造地帯の魅力づくりなど、地域の産業資源を活用したまちづくり事業を推進し、地域産業の活性化を図ります。また、住工が混在する地域において、事業者も安心して操業できる環境整備の方策について検討します。

(4) 魅力ある商品開発や経営革新への支援

産学官民および異業種間の連携や専門家等の派遣により、新製品開発や新事業創出を支援するとともに、地域ポータルサイトを活用するなどにより、内外に市内製造業の優れた技術力をPRします。また、情報化に取り組む中小企業に対し、人材の育成に努めるとともに、ITの活用により個々の企業が有する知識、技術などの情報交流を促進します。さらに、経営基盤の強化に向け、県、商工会議所との連携を強め、融資制度、人材育成のための研修や企業診断事業などの充実に努めます。

(5) 起業等への支援

学生の若い力や豊富なノウハウ・人脈を有する退職者などのシニア層の力を産業振興に活かすため、起業家支援スクール事業の充実はじめとする環境整備を行います。また、新規の起業だけでなく、市内で事業を営んできた事業主の第二創業を支援します。

市民一人ひとりの活動

市内産業への理解を深めるとともに、地元の商店、地域ではぐくまれた商品などを利用する。

まちづくり指標

<指標の考え方>

西宮市の産業特性を活かし、活気と活力にあふれた産業振興を図るため、小売業年間販売額を重点指標に位置付けます。また、製造業の高付加価値化の指標として、1事業所あたりの製造品出荷額を設定し取り組みを進めます。

重点	指標名	単位	現状値 (H16)	目標値 (H30)	指標方向
	小売業年間販売額	百万円	360,778	430,000	▲
		式	-	-	
H30目標値の設定理由 近年の動向を基に設定					
	1事業所あたり製造品出荷額	百万円	1,805	1,900	▲
		式	製造品出荷額 / 事業所数	-	
H30目標値の設定理由 設備投資を基調とする生産力の向上を考慮して設定					
	従業者数 (民営)	人	121,233	125,000	▲
		式	-	-	
H30目標値の設定理由 職住近接スタイルへの変化による雇用増大を考慮して設定					

主な部門別計画

西宮市産業振興計画 【市民局：平成18年7月～平成24年3月】